3−11　大学情報化職員基礎講習会

本講習会は、教育研究および人材育成支援の積極化を図るため、職員の意識改革を促進するとともに、情報技術を活用した支援体制、支援内容・支援方法、支援のための情報環境、支援能力の養成など、初心者を対象に講習・意見交流を通じて、基礎知識の修得を目指すことを目的に実施するものである。なお、講習会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：南　雄三、獨協大学）が担当した。

（1）開催要項の決定と実施準備

本年度は、本講習会の趣旨徹底を図るため、教育支援にいかにかかわるかという職員の意識改革を強調する方向で企画することとした。そこで、初日の全体講義として、大学改革に向けた職員の役割について、斎藤信男氏（慶應義塾常任理事）に解説いただき、参加者の共通理解を図ることとした。

班別講義では、教育支援・人材支援に向けた組織・体制作り、情報化環境整備の推進、教育・研究支援の体制、情報の有効活用をテーマに掲げ、事例を踏まえ質疑応答を含め詳細に解説することにした。また、最終日には、講習内容を再確認し、理解を一層高めるために、各自の業務と関連させながらグループディスカッションを行うことにした。なお、参加者同士の交流の機会を確保するため、会場をホテルに戻し合宿形式で実施することとした。

平成１６年度大学情報化職員基礎講習会開催要項

１．講習会の目的

本講習会は、教育・研究および人材育成の支援積極化を図るため、加盟大学・短期大学の職員を対象に情報技術を活用した支援体制、支援内容・支援方法、支援のための情報環境、支援能力の養成などについて講義と意見交換を行い、参加者に意識改革を促しながら基礎知識の修得を目指すものです。

２．受講対象者

加盟大学・短期大学の職員で、情報技術を活用した業務の情報化と教育支援に関する基礎知識の修得を希望する方。

３．講習内容

本講義は、職員としての教育研究および人材育成の支援について、その重要性を学ぶとともに日常業務を通してＩＴを活用した新しい業務のあり方を模索することを基本としております。講習の内容は、教職協働による情報化体制、情報環境の整備、教育研究・人材育成の支援体制、情報の有効活用

等ですが、プログラムの最終日には参加者の意見交換を行い、講習内容の一層の理解を図ります。

【講義】 ※講習内容は変更することがあります。

（1）大学改革と情報化 ―職員の意識改革を目指して―

（2）大学改革に向けての組織・体制作り

（3）情報化環境整備を推進するためには

（4）これからの教育・研究支援体制に向けて

（5）情報の有効活用

4．事例紹介

講習内容全般に関わる事例として、大学の教育・研究支援の事例について、学内での合意形成のプロセス、組織・体制(担当部署の創設等)、支援内容等の問題について体験を踏まえた報告を予定しています。

5．日程・会場

日程：平成16 年7 月7 日(水)～9 日(金)

会場：浜名湖ロイヤルホテル

※ 本年度は合宿形式で実施します。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。

※ 原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

6．募集定員　２２０ 名

［全体講義］

テーマ：「大学改革と情報化 ―職員の意識改革を目指して―」

講師： 斎藤 信男 氏（慶應義塾常任理事）

本年度より、大学の第三者機関による評価が制度的に開始された。好むと好まざるとに関わらず、大学は自ら教育研究の活動内容について自己点検・自己評価を行い、望ましい教育研究の実践に努めなければならない。

それには、法人の理事会をはじめ、教員、職員が一致団結してその目的達成のために不断の自己研鑽に努めることが望まれる。教員のみならず職員においても教育研究の改善充実に関与していくという意識変革が必要となる。とりわけ、職員においては、教育研究支援、人材育成支援の側面から教員と連携して最適な環境作りに貢献し得るよう、これまでの業務のあり方を点検し、業務改善に努めることが望まれる。

本講義では、これからの大学教育および大学の経営管理の方向性および情報化を通じての問題解決の可能性とその方略について、慶應義塾大学の事例を踏まえ総合的に学習する。

［班別講義］

講義① 「大学改革に向けての組織・体制作り」

大学改革を実現するために、職員が教育活動にどのように関与していいかなければならないのか、また、教育活動を支援する体制（教職協業）をどのように作っていくかが、喫緊の課題となる。

本講義では、教職員の連携体制のあり方、連携のための情報化推進の戦略、情報共有のシステム作り等について、体験を踏まえた解説を行う。

【サブテーマ】

・情報共有と教職共同体制による組織の活性化

・大学の情報化推進体制

講義② 「戦略的な情報化環境の整備」

情報化環境の問題は、大学のこれからの教育研究の方向性を踏まえたものでなければならない。例えば、大学が掲げる人材育成を実現しようとすると、学生の学力を伸長させるための教育努力のほかに学生の人間力を高めるための個人指導等、きめの細かい教育が求められるようになる。とりわけ、学内ＬＡＮによる学生への指導をはじめ、ＩＴ を活用した学習支援の工夫等により、学生ひとりひとりの自己実現能力の育成が可能になる。　本講義では、以上のような教育目標をそれぞれの大学において確認しつつ、それを実現するためのネットワーク環境やマルチメディア教室、e-ラーニング環境等、大学の基盤的な情報環境のあり方について、私情協の
「私立大学情報環境白書」を参考にしつつ学習する。

【サブテーマ】

・いつでもどこからでも学習できる環境

・情報を共有するためのプラットフォーム

・大学における情報環境の動向

講義③ 「これからの教育・研究支援とその体制」

教育改善に不断に努力していくには、ファカルティ・デベロップメント（ＦＤ）など、教員の教育指導能力向上のための組織的な取り組みが避けられない。それには、他大学での教育努力の情報収集と紹介、授業を円滑に運営するためのＩＴ活用能力の研修、ＦＤ研究会の組織化、学生の学習指導に必要な個人情報の提供、社会支援を取り入れた新しい教育システム(教育の産学連携)の企画、教育業績の評価制度の企画等について、職員の立場から環境を構築することが望まれる。大学職員に期待されるのはそのような動きをつくり、教育改善の旗手としての一翼を担っていくことである。

本講義では、教育・研究の質的向上を実現するための組織的な教育研究支援体制のあり方について解説する。

【サブテーマ】

・ＦＤ の一環としての情報化

・ＦＤ を推進するための職員の役割

・教育研究支援に必要な環境、制度

講義④ 「情報の有効活用」

教育研究・人材育成という目標を達成するために必要な重要な資源として、

情報を電子化し利用しやすいよう体系化を図る必要がある。教員が所有する就学指導上の情報をはじめ、職員組織が所有する学生の個人情報、さらには理事会が所有する戦略情報等、あらゆる情報が目的達成のために蓄積され、利活用できるような状態に整備されていることが重要である。　本講義では、全ての職員にさまざまな立場から大学改革に関与し得るよう、情報の活用について、その可能性と限界を学習し、大学内部で解決し得ない問題等についてもインターネットを駆使して問題解決の可能性を模索できるようにしたい。

【サブテーマ】

・経営管理・教務管理情報等について
・学生・教員の個人情報と保護
・学術情報資源とその取り扱い
・情報発信とアカウンタビリティー
・情報リテラシーと業務コンピテンシー

（２）開催結果と次年度の計画

参加大学は１０３大学、３短期大学の総勢２１５名である。開催結果の詳細は資料編【資料１３】を参照されたい。

斎藤氏の全体講義では、教職協働や責任ある大学教育への関与などについて、より俯瞰的な視点から解説が行われ、教育支援の重要性など日常業務で見落としがちな視点を取り戻せるよい機会であった。班別講義は、具体的な職員の役割についてよく理解できたとの意見が多く見られた。また、ディスカッションによる意見交換を通じて、日常業務と講義の内容を関連付けて考えることができたと好評であった。

次年度の企画では、全ての講義をプログラムの順に受講できるよう、全体会形式で実施することを企画している。内容は、昨年度の講習を基本に精査し、ディスカッションの時間を多くとり、講習内容の確実な理解と定着を図るよう工夫することとしている。